

変わる東北の生態系

— 「今」と「これから」 —



数十年に一度の洪水から、千年に一度の大津波まで、生態系は様々な出来事に晒されています。生態系はある程度、このような出来事に対応する力を備えています。これまで経験したことのない出来事が続けば、バランスを崩してしまう可能性があります。生態系の変化をいち早く捉えるためには、モニタリング（継続観察）が重要です。

本講演会では、東北の生態系で近年起こった変化や、将来起こりうる変化に向き合ってきた研究者が、活動を紹介します。

生態系の変化をどのように捉え、向き合えば良いのか、

参加者の皆さんと一緒に考える機会になればと思います。



Takao Suzuki



Takuzo Abe



Sho Chiba



Hiroto Enari



Akifumi Makita

● 話題提供

- 鈴木 孝男 (みちのくベントス研究所)
- 阿部 拓三 (南三陸ネイチャーセンター)
- 千葉 翔 (山形県森林研究研修センター)
- 江成 広斗 (山形大学)
- 蒔田 明史 (秋田県立大学；世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査会)

2023
3.18 [土]
14:30–17:00

オンライン配信
(Zoom ウェビナー)

参加無料

当日先着順 [1000名]



[こちら](#)から事前にご登録いただくと、電子メールでリマインダーとZoomウェビナーのアクセス方法をお送りします。

— 講演紹介 —



「仙台湾沿岸干潟における津波の影響とその後」

鈴木 孝男 (みちのくベントス研究所 所長)

仙台湾沿岸域の干潟は、津波によって大きな影響を受けました。干潟に生息する底生動物（ベントス）が、震災の前後にどのように変化したのか、また、沿岸域における防潮堤建設工事等が及ぼした二次的被害についても紹介します。



「南三陸町志津川湾でみられた環境変化」

阿部 拓三 (南三陸ネイチャーセンター 研究員)



生産性と多様性の高い海域として知られる志津川湾は、東日本大震災や地球温暖化の影響により、海中の環境変化は想像以上に早いスピードで進んでいます。海の森や草原（藻場）の状況、近年特に顕著になりつつある魚類相の変化など、三陸の海の現状を報告します。



「蔵王連峰におけるオオシラビソの集団枯損」

千葉 翔 (山形県森林研究研修センター 研究員)

冬の樹氷で有名な蔵王連峰のオオシラビソ（アオモリトドマツ）林において、まとまった立ち枯れが発生しました。立ち枯れの位置把握に始まり、枯れた後の森林の更新についてお話するとともに、樹氷林の再生に向けた近年の取り組みを紹介します。



「縮む社会における野生動物との向き合い方」

江成 広斗 (山形大学 教授)



人の増加に伴う生態系の変化は地球規模に達しています。一方、人の減少も生態系に新たな変化をもたらし、社会にとって「望ましくない」影響もみられ始めました。縮む社会における野生動物との共存について「かわりの再生」をキーワードにヒントを探ります。



「白神山地のブナ林100年モニタリング」

蒔田 明史 (秋田県立大学 教授)

気候変動が顕在化する中、本来直接的な人為の影響の及んでいないはずの世界遺産の森にどんな変化が生じているのか。24年にわたり継続してきた核心地域での調査結果を紹介し、住民参加によるモニタリングの意義を考えます。



企画 日本生態学会東北地区会

司会 富松 裕 (山形大学)

お問い合わせ先 E-mail: htomimatsu@sci.kj.yamagata-u.ac.jp

※ 本講演会は、日本生態学会第70回大会（仙台大会）にあわせて実施されます。